

「市内全地域での地区連絡会議に会長・職務代理が出席」

京都府 京田辺市農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員	:	14名
○ 農地利用最適化推進委員	:	11名
○ 事務局職員	:	3名
○ 関係団体（名称のみ）		現地推進役
○ 市町村行政との連携状況		農業委員会の最適化推進会議や地区連絡会議に市が出席している。



興戸区 地区連絡会議（会長職務代理・事務局長が出席）

2 地区の特徴、状況、課題

- 京田辺は関西文化学術研究都市に属しており、近鉄・JRの2路線が市の中央部を南北へ走り、京都・大阪・奈良への利便性がよく、丘陵地を中心に住宅開発がなされ都市化が進み、人口は増加傾向。
- 市内は5地域（旧集落26区）に分けられ、地域計画の策定には各地区における協議結果が必要。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 最適化推進会議にて、農業委員会委員に地域計画策定の行程を説明。
- 各地区での地域計画策定に向けて説明会・地区連絡会議を開く中で、全ての地域の会議に必ず一度は農業委員会会長又は職務代理が出席し、現地推進役や事務局職員と一緒に地図を囲んで地域の現状を認識・共有。
- 一部地域では「10年後の耕作者」を独自にアンケートし結果に反映。
- 現況地図の作成は令和6年中に完了。今後は担い手への集約化を目指しながら、継続的に会議が地域で開かれる体制作りを進めていく。

4 成果（地域計画の実行に向けた取組内容）

- 集落単位で農業関係者が話し合いを行うことで、各集落の問題点や今後対策が必要な農地を可視化・共有することができた。
- 農業者の減少に歯止めがかからない現状を踏まえ、今後農地をどのようにして守っていくのかを地域内で継続的に議論（会議開催）する必要性について認識していただくことができた。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください